

## 第4回 柳瀬川・空堀川流域連絡会 会議録

日 時:平成13年2月22日(金)午後2時～4時10分

場 所:東京都北多摩北部建設事務所、2階会議室

出席者:委員20名(全24名)

### 【議 題】

- 1.開 会
- 2.挨 拶
- 3.議 事
  - (1)議事録について
  - (2)分科会、専門部会の検討
  - (3)今後の進め方
  - (4)その他
- 4.閉会

### 【議 事】

#### 1.開 会

事務局：第4回の流域連絡会を始めたい。まずお手元の資料の確認をさせていただきたい。

#### 【資料確認】

事務局：では最初に座長から開会の挨拶をお願いします。

#### 2.挨 拶

座長：お忙しい中ご出席頂きありがとうございます。陽気が良くなってきてこれから色々が始まる予感がする。今年度の工事も順調に進んでおり、都議会も始まった。また空堀川は治水の重要河川に指定されており、工事の予算もある程度つくと思うので、それが決まればこの会でもご報告したい。本日は分科会等の設置について意見交換したい。都内で同じような連絡会が現在6つある。始まった順に、江東内部河川、神田川の支流である亀島川、柳瀬・空堀川、平井川、野川、内川が現在連絡会を設置している。各連絡会の動きとしては、会の進め方については特に決まっておらず、意見交換の場として開催している。分科会等の設置は当会が初めてになる。ぜひいい仕組みを作っていきたいのでご協力をお願いしたい。本日も長時間だがよろしくをお願いします。

事務局：2月後半から3月前半にかけては各市で議会が行われており、本日は大変忙しい中お集まり頂いた。代理出席の方もおられるので、まず自己紹介を行いたい。

#### 【事務局・委員自己紹介】

事務局：では進行を座長をお願いします。

### 3. 議事

#### 1) 議事録について

座長：早速、会を進めていきたい。壁に空堀川の写真を貼ってある。東村山市で川まつりが毎年5月に行われている。その様子もあるがこいのぼりの写真は東村山市の写真コンクールで佳作を取った作品。こうしてみると空堀川にも生物が住む環境が戻ってきたという感じがする。白いキジは日本に数羽しかいないそうであり、大変貴重な写真。本題に戻って次第にそって議事を進めていきたい。まず議事録の確認について事務局から説明をお願いします。

事務局：議事録の公開について、前回に生のままで行うということが決まったので第1、2回のもをまとめた。これを都庁、北北建、4市の窓口置く。第3回のもはまだ発言者名を入れたままのもであり、この内容を確認して頂き、修正箇所があればお願いします。

座長：議事録は都庁、北北建、4市の窓口置くことになっている。第3回のもは各自内容のチェックをお願いしたい。名簿をご覧頂きたいが、柳瀬川流域川づくり市民懇談会から参加されている田所さんより転居されるということで、2/15付けで委員を辞退したいとのご連絡があった。要綱では団体からは1名推薦して頂くことになっているので、後任の方を推薦頂き、次回から出て頂きたいと思う。それでは分科会・専門部会の検討に入りたい。まず事務局より資料の説明をお願いします。

#### (2) 分科会、専門部会の検討

事務局：前回の議論で分科会や専門部会を設置するという大枠の形は決まった。今日はその内容について話し合いたい。お手元の資料とホワイトボードを使いながら議論したい。また資料-6,7にたたき台を作成した。まず、前回欠席された方もいるので簡単に説明したい。資料-4,5に分科会、専門部会の提案、現在活動中のもの、検討中のものをまとめてある。分科会は、各市を1つの単位とし、この資料では仮称として「市分科会」としている。基本方針として、分科会の運営は各市で、専門部会は団体委員が行う。この2つの違いとしては、地域別、テーマ別ということ。専門部会は、現在4市で進めている水質浄化対策会もあるので、それとの関係をどうするかがある。提案では、仮に水量水質改善検討会としている。この資料を議論の糸口としていきたい。まず分科会からご意見をお願いしたい。各市域で1つの分科会を立ち上げれば、議論の材料は多くあるので増えていくと思う。

市民委員：行政として長期的な計画があると思う。行政は人材が豊富であり専門家が計画をたてている。それに対して素人が何を協力するのかという疑問がある。計画を進めていく上で何か障害となることが前もってわかっているのでこういった会を開いているのか。また、専門家だけで考えた計画を住民の意見を聞くことによってその方向性を修正するためなのか。もしそうであればすばらしいと思う。いずれにしても計画が示されないこと

には意見ができない。これまでの議論が何の役に立っているのかという疑問がある。こ  
こはこうしたほうがいいのかというような、本音の議論が必要だと思う。

座 長：確かに改修計画はあるが、具体的にこの地域はどうするということが入っていない。こ  
れまで行政主導で進めてきたが、批判もありそれを改めてきている。平成9年に改正さ  
れた河川法でも治水と環境を一体で考え、地域の意見を大切にすると考えになってい  
る。この会もその考えのもとに進めている。柳瀬川ではそのような進め方で計画線も変  
えている。皆さんから出されたご意見は川づくりに反映できる。白紙の状態からやるの  
かたたき台を出すかのやり方はあるが、地域の環境を考えていきたい。まだ具体的な議  
論はしていないが、見学会の際に出された意見が分科会等の材料になるのではないかと  
思う。

市民委員：行政も十分に考えてやっていると思う。市民から出された意見の方がおかしいことも  
あると思う。

座 長：議論をぶつけ合うのは難しいが大切なこと。行政のあり方の問題でもある。こういう場  
で議論することによって問題も明らかになる。これまでは立場が違う人と接する機会も  
無かった。そういったところからも動きは出てくると思う。行政側はそういう場面で行  
司役をしなければいけない。こういう場の発言を計画に生かしていきたい。計画を地域  
にあったものにする、色々な立場の人が一緒に議論するという2つのメリットがあると思  
う。おかしな意見が出ることもあると思うがその時にはきちんと説明したい。皆さん  
にご応募頂いた時の作文やこれまでの会での意見を参考にして計画づくりを進めている。  
この場の議論は決して無駄になっていない。分科会等は皆さんの意見を具体化するため  
の提案。まずこの仕組みについては如何でしょうか。

行政委員（代理）：話が戻ってしまうかもしれないが、分科会について武蔵村山市では源流ワー  
クショップとなっているが、水路ばかりで市内には川らしいところはない。調整池など  
の工事も進んでいる。そういった中でどのようなワークショップができるのか、また将  
来計画にどのように反映できるのかという疑問がある。

座 長：源流は見学会で見た場所。はじめて源流のすばらしい場所を見た。そのときの議事録を  
読むとわかるが色々な意見が出されている。これを守っていきたいという意見が多かっ  
たと思う。

行政委員（代理）：源流そのものをどうしていこうという意見は無かった。結局は源流を守ろう  
という意見に集約されてしまうのではないかと。ワークショップという形で何を意見交換  
すればいいのかがわからない。

行政委員：これはあくまでも提案なので名前を変えてもいいと思う。

行政委員（代理）：当市内に川らしいところはない。その中で市民を集めて議論するのは難しい。

市民委員：市民の立場で意見を言いたい。源流ではきれいな水が流れているが、少し行くとすぐ  
に汚くなり、夏には臭いがする。また、改修は進んでいるという話だったが進んでいな  
いところもある。そこの自然を残すということもそれをどうしたらいいかも議論でき  
ると思う。そういった問題を行政に働きかける場がない。暗渠が果たしていいのかとい  
うことも含めて、川には色々な問題がある。会の名称ではなく何をすべきかを考えたい。

事務局：会が始まってもう2年になるが、改めて最初の頃の話をおさらいしたい。空堀川の改修計画はかなり前に作られており、それに基づいて工事を進めている。段階的に治水の安全度を高めており、現在では50mm/時間の雨に対応できるような整備を進めている。平成9年の河川法改正では、これまでのコンクリートで固めた川づくりをやめ、治水と環境を2つの柱として、もう少し工夫をして川づくりを進めなさいという考えになった。都も、それを受けて流域の皆さんの声を吸い上げて計画を進めようということでこの会を作った。こういった場で普段から川づくりについて議論していこうということだった。改修計画はあるが、それも作り直すことになっている。できるだけ早い段階から皆さんの意見を聞いて作っていこうとしている。そういった計画づくりの手続きも時代とともに変わってきた。現状の川を見るとすでに出来上がっているように見えるが、今は30mm/時間の雨、言い換えると1.2年に1回程度降る雨に対応するものとなっており、将来はもっと大きい川になる予定。順次、上流へ改修が進んでいく。そういった背景を踏まえて、将来を見据えながら、当面の問題に対して議論すべきことが多くあると思う。そういったことをテーマにしながら議論していきたい。新しい改修計画の検討会もいずれ開くことになると思う。それらの議論をするベースとなる場を作るといこと。会を作って終わり、工事が完成したら終わりではなく、これから色々なテーマがあるので当面何ができるかということ議論したい。

市民委員：会に出席する中で公募、団体、行政の各委員が会を重ねて議論していかなければいけないと思った。下砂公園付近も見学会で見たが良い川になると思う。行政からの働きかけがあればよい川になると思う。地域にはこのままでいい、変わらないという人もいるが考えを変えていかなければいけないと思う。問題が増えていけば新たな分科会もできると思う。

座長：年2回では十分に議論できないということで分科会、専門部会の仕組みを考えた。上中下流で川の問題も違う。空堀川は4市にまたがっているが工事を進めても違った問題が出てくる。今回の資料がすべてを網羅しているわけではなく、これとは違った課題もあると思う。議論を進めて合意形成を図っていきたい。

市民委員：行政からこれが一番いい川づくりなんだ、金のかからない川づくりなんだ、緑や環境よりもいいんだという観点はないのだろうか。

事務局：これまでは川はあふれてはいけないということで工事を進めてきた。しかし、川の空間や流れ、生物が人を潤すこともある。人間が生きていくためには生物と共存していかなければならないということで環境面が見直されてきた。そういった考えにたつとコンクリートで作るのではなく、川は貴重な生き物の空間であり、緑のネットワークができ、まちづくりに広がり、さらには地球環境にまで寄与するものとなる。川は流れるものだけではないということを考えている。

市民委員：行政がそのように考えるのはとてもよいことだと思う。税金を使うことなのでコストのことを考えると引くべき線があるのだと思った。魚がいなくなると人間に帰ってくるということだろう。ただし専門家だけの考えになってしまうこともあるので、そこやり取りできるといい。

事務局：改修計画はできているがその中身について議論したいということでしょうか。

市民委員：そこまでは言わない。これをやるとモメそうだという内容もあるのかと思った。

行政委員（代理）：武蔵村山市は多くの水路を抱えているが、狭い道路に接しており地域の人からは蓋をかけて欲しいという要望が多い。そのような現実の中で暗渠をなくそうという議論は理想論にしかなりえない。

市民委員：水質問題をどうするのが大きな問題になる。下水道の整備は進んでいるがいまだに汚い。これについて議論したい。空堀川は新たな河道を作っている。ここには生物がいない。もっと生物が住みやすい川を作って欲しい。上流では河川に薬剤散布を行っている。魚を増やすことによってユスリカの発生をとめることもできる。そういうことでコストダウンしている例もある。雨のたびに河道内のものがすべて流され、平らになってしまう。深みを作る、ピオトープを作るといような議論をしたい。そうすれば東京一の川になると思う。

座長：水質は専門部会だが、川の作り方についてはどこの分科会でもできる。

市民委員：上流ではホタルやカワニナもいる。川を豊かにすることを考えていけると思う。

市民委員：柳瀬川流域川づくり市民懇談会の世話人もやっている。また金山緑地公園の際に行った懇談会にも参加し、とても画期的なものだった。今日の提案も大変良いことだと思う。第3回連絡会に私が発言したこともこの資料の中に盛り込まれている。現在の連絡会は清瀬市6名、東村山市5名、東大和市5名、武蔵村山市4名と武蔵村山が若干少数派になっている。これに行政委員が入れば数名の分科会ができる。また他の市民や専門家をオブザーバーとして加えて進めていけるのではないかと期待している。武蔵村山のようなところでも市民参加の会があれば意見が出てくると思う。それを全体会で出し合っていきたい。そこであげられた共通の問題に対して専門部会で検討するという流れになればいい。続いていくと思う。これは大変意義のあることだと思う。市別の分科会で行政の立場も考えながら市民の意見を集約して、それを全体会にあげていきたい。ぜひとも進めて欲しい。

座長：これまでのご意見をまとめて、今回このような提案となった。議論する中身はより具体的なほうがいいと思う。ふるさと意識ということを見ると、各市に1つの会があった方がよい。しかしスタートから無理はしたくない。難しいものはついていけない人もいるので、バランスよくやっていきたい。理想論であってもそれを議論する場が大切。こういうものがあるといいというものをご意見頂きたい。  
ここで10分ほど休憩とします。

【休憩】

座長：再開します。運営方法も説明がないとイメージが湧かないと思う。あくまで参考例をつけたものだが、事務局から説明をお願いしたい。内容については、これらが動く中で議論できると思う。

事務局：資料 - 6, 7について説明します。6はしくみについて。7は進め方についてとなって

いる。連絡会をどう位置付けるかもあるが、分科会には各市の委員が入る。連絡会は計24人であり、これだけの人数と年2回の会で柳瀬・空堀川の将来を議論できるのかということで分科会や専門部会の設置を考えた。これにより開催の頻度を高めたり参加人数を多くしてより多くの人に参加できるように川づくりを進めたい。ここで20名程度というのは参考だが、内訳は座長、副座長は行政が就いて、連絡会委員の他に新たに市民委員に入って頂く。自治会、商店会の代表者、PTA、企業などこの部分を膨らませる。団体委員は0から2としている。市行政の委員は全体のバランスを考え2名としているが関係課が入って増えてもいい。ここまでが分科会の正式な委員。必要に応じて臨時委員に入って頂く。たとえば議員や都行政など。専門部会は、座長、副座長は団体委員にお願いする。他の連絡会では学識経験者も入っているところもあるがこだわらなくてもいいと思う。公募、団体委員は自由参加。さらに新たに市民委員を5名程度募集する。行政は各市1名程度。都も連絡会の半分程度は参加する。これは幅のある数字なので変更は可能。また、必要に応じ専門家を呼べる仕組みにしておく。専門部会はテーマごとに変化があってもいい。新しい改修計画の際には人を増やしてもいい。人数に幅を持たせたい。進め方については、分科会は地域の意見を集約して全体会にあげる。連絡会委員はそのつなぎ役を担う。人数は20名程度で任期は連絡会とあわせる。連絡会も無報酬なので分科会も同じとする。座長は市の行政が行い、開催は年4回程度。ただし、状況によって多くなっても少なくなってもいい。課題については、テーマ設定から議論していく。今回仮につけた名称や内容にはこだわらなくていい。専門部会は全流域のテーマごとに設置。人数、任期、無報酬は分科会と同じ。座長は団体委員にお願いする。

座長：分科会のテーマは色々対応できる。各市でエネルギーが必要なことなので大変だが北北建も協力してやっていきたい。運営方法については如何でしょうか。

行政委員（代理）：質問だが分科会は各市で、専門部会はテーマ別に必要に応じて設置ということだが、分科会は地域のハード的な部分と理解していいでしょうか。

座長：事務局からの提案として整備計画をあげているものが多いが、ハードだけでなく、生物などのソフトなものも入ってくると思う。専門部会の水質が分科会の整備に関わってくることもある。幅広い議論になる。今までは行政が作ったものに意見を聞くだけだったが、これからは議論できるような素材を提供するので多岐に議論して欲しい。

事務局：分科会、専門部会の考えは、要綱があっただけ進めなければいけないというものではなく、まずテーマが先にあってどう進めていくべきかを考えていきたい。分科会は地域性の高いもの、専門部会は流域全体で議論するテーマのもの。両方で議論してもいいと思う。

市民委員：2つも3つも専門部会ができることになる。委員はどのように参加したらいいのか聞きたい。

座長：専門部会は1つということではない。テーマごとに別々の集まりになる。20人としていても多くても少なくてもいいと思う。

事務局：5、10人でもいい。専門性が出てくるものなので1人の座長がすべてをこなすのは無理。委員は複数の会に出てもいいと思う。

市民委員：分科会の運営は各市でできるのかが疑問。

座長：大変エネルギーがいること。だが今の段階では市が地元密着で進めるのがいいと思う。

行政委員：金山緑地公園では空堀川の改修とあわせて工事を行うので、清瀬市長が地域の人を集めて、市として懇談会を立ち上げた。この提案の分科会のように進められた。2年間で15回を開いたが河畔林の保全、管理用通路の整備方法などについて議論した。地域の人は治水を中心に考え、環境に興味のある人または川に思い入れのある人は環境への意見が多かった。その調整が難しかったが、今工事に入っている。市民参加というより市民参画ということで進めた。

座長：分科会は市に運営をお願いしたいが清瀬市は如何でしょうか。

行政委員：金山緑地公園の際は市民や議会からの要請があった。こういった場合行政がリードしていかないといけないと考えている。

座長：東村山市は如何でしょうか。

行政委員（代理）：既存の会もあるが自治会などの組織もあるので難しいと思う。しかし通っていかねばいけない道だと考えている。質問だが、組織を進める中で都は参加するのかが聞きたい。

座長：参加する。議論されたことを現実にするために行うので、市にはぜひ運営をお願いしたい。都で説明が必要なものはやっていきたい。

行政委員（代理）：通常整備を行う際に検討する基本計画や実施計画よりも前段の会となると思う。市が基本計画や実施計画を作って実施するということはないのかが疑問。

座長：色々あると思う。状況に応じて相談したい。議論するもののたたき台が必要であれば提案したい。

行政委員：市は河川管理者ではない。以前の例ではこういった会を作って意見集約したものを都へ提言した。

座長：具体的にはこのように進めた方がいいのではということで提案した。東大和市は下砂公園があるが如何でしょうか。

行政委員：空堀川沿いに3.5haの都市計画決定されたものがある。河川の用地買収は進んでいるが公園は市の事業で行うことになる。今はまったくの白紙の状態。子供会や学校とも関連するので地元の意見をどのように聞かかが問題。会を立ち上げる前に市が様々な情報を収集しなければならない。表の下の上砂は一部進んでいる。東村山のおまつり広場のようなことも考えている。こちらの方が会としては先だと思う。

座長：中身についてはこれから考えたい。子供会や学校の話もある。幅広く議論していきたい。

行政委員：都市計画マスタープランにもものっている。都の動きも見据えながらまず関係課と情報交換を図っていきたい。

座長：武蔵村山は如何でしょうか。

行政委員（代理）：当市は源流と支流を抱えている。その整備は下流に影響力がある。どうやっていけるのかが疑問。

### (3)今後の進め方

座長：各市の事情があると思う。また組織の問題もある。各市と都が調整を図る時間を設けた。今日はこの仕組みを進めたいということで議論した。市民の意見をできるだけ反映していきたい。川についてやその文化や歴史まで色々議論できると思う。ハードの議論だけではない。今日は、ホワイトボードの表に書き込んでいこうと思っていたが分科会等を立ち上げる中で考えていけばいい。まず市と調整するが委員の方も意見があれば事務局まで連絡して欲しい。それらをまとめて会の進め方について3月末には報告したい。他に発言が無かった方は如何でしょうか。

市民委員：毎日川のそばを通るがシラサギ、カモが遊んでいる。このようないいところもあるがタイヤなどが落ちており悪いところもある。身近な思いとしてはきれいな川になって欲しい。分科会等の進め方をまとめていい川づくりを進めていきたい。

#### 4. 閉会

座長：またタイヤなどがあればご一報頂きたい。本日は長時間ありがとうございました。これからより実現性の高いものを考えていきたい。

事務局：各市と調整し、後日次回の日程をご連絡させて頂きたい。本日はありがとうございました。

(以上)